

1. 内政

▼ティモシェンコ前首相等に関する動き

- ・21日、高等商事裁判所は、ティモシェンコ前首相が1990年代に代表を務めていた「ウクライナ統一エネルギー・システム」社の負債の露国防省への返済をウクライナ閣僚会議等に命じた9月19日付キエフ市商事裁判所判決を有効とする12月3日付キエフ控訴商事裁判所判決を不服とした法務省による上告を棄却し、閣僚会議等に31億1,300万フリヴニャの支払いを命じる原審維持の判決が確定。
- ・22日、ティモシェンコ前首相は、プシヨカ検事総長により指摘されたシチュルバニ元最高会議議員暗殺事件への関与の疑いを否定する旨の声明を発表。23日、ラザレンコ元首相は、同検事総長の発言は捜査過程における被疑者の人権を侵すものである旨非難。
- ・23日、最高会議野党3会派は、同問題に関する最高会議臨時調査委員会の設置等が必要であるとし、最高会議特別会期召集に向けた議員158名分の署名を最高会議に提出。
- ・24日、クジミン検事第一次長は、裁判を通じてティモシェンコ前首相に「ウクライナ統一エネルギー・システム」社の負債の返済を求める意向である旨、また、同前首相に関し、複数の刑事事件の捜査が同時に進行中である旨発言。

▼野党の動き

- ・22日、服役中のティモシェンコ前首相は、2015年大統領選挙における野党候補者勝利のために最高会議における統一野党会派を設立するべきである旨呼びかけ。これに対し、クリチコ「ウダール」党党首及びチャフニボク「スヴォボーダ」党党首は、統一会派設立の可能性を否定。
- ・22日、クリチコ「ウダール」党党首は、最高会議における個人投票の厳守を定める最高会議規定の遵守を確保する義務を怠ったとしてリュバク同議長を提訴。

▼その他

- ・22日、ヤヌコーヴィチ大統領は、キエフ市内で行われた「ウクライナの合同と自由の日」記念式典に出席し、欧州の民主的価値、経済的自由及び高い社会的基準の選択はウクライナ外政の優先事項であると共に、隣国との良好な関係はウクライナの安定と繁栄の基礎である旨発言。
- ・23日、服役中のルツェンコ元内相は、キエフ市内の病院で手術を実施。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・21日、欧州復興開発銀行(EBRD)は、2013年のGDP成長率見通しを1.0%に下方修正。これは、様々な国際機関によって示されている見通しにおいて最も低い値。2012年

のGDP成長率については0%と予測。

- ・22日、アザロフ首相は、ウクライナ政府が2013年12月10日までに、「2013-2014年における経済発展加速のための国家プログラム」を採択する予定であり、これは世界市場と国内経済の発展に関連した試みを考慮し、経済改革の加速のために提供されるであろう旨発言。
- ・23日、アザロフ首相は、2013年のインフレ率を約3%、3～4%の経済成長率を達成することを期待している旨発言。政府の2013年のGDP成長率及びインフレ率をそれぞれ3.4%及び4.8%と予測。
- ・23日、世界鉄鋼協会は、ウクライナの2012年の鉄鋼生産量が前年比6.9%減の3,291万トンとなり、世界の鉄鋼生産量の10位を占めた旨発表。

▼財政・金融

- ・21日、アザロフ首相は、2013年に為替相場が安定するであろう(平均の為替相場が8.30～8.40フリヴニャ/米ドル)、我々は為替相場を安定させるために外貨を浪費しないし、その安定を図るための他の手段を十分に有しており、したがって、国内通貨の価値の大幅な引き下げはないであろう旨発言。

▼IMF

- ・23日、IMF駐ウクライナ事務所は、ウクライナが2013年中に、約56億3,000万米ドルに相当する債務をIMFに返済する義務がある旨発表。2012年は、ウクライナはIMFへの債務として、37億4,000万ドルを返済。

▼ガス問題

- ・23日、閣僚会議は、英蘭ロイヤル・ダッチ・シェル社と「ユジフスク鉱物資源」社との間のユジフスク・ガス田(ドネツク及びハルキフ州)の生産分配に関する契約案を承認。
- ・24日、世界経済フォーラム年次総会開催中のダボスにおいてヤヌコーヴィチ大統領及びルツェンコ首相臨席の下、スタヴィツキー・エネルギー・石炭産業相とヴォーサー・シェル社CEOは、ユジフスク・ガス田の生産分配に関する契約に署名。署名式後、ヤヌコーヴィチ大統領は、今回署名された契約はウクライナにおけるガス生産量の増大、雇用の創出及び経済の向上という観点から有益なものである旨、また、ナフトガスは複数の会社に分割されるであろう旨発言。

▼その他

- ・24日、ブラソフ経済発展・貿易相は、ウクライナ・中国間の経済技術協力に関する政府間協定に署名するための権限を与えた旨発表。本協定の目的はウクライナ側の優先順位の高い計画を実施するための中国政府からの援助を得るためである旨言及。

3. 外政

▼ヤヌコーヴィチ大統領のダボス会議出席

・24日、ヤヌコーヴィチ大統領は、世界経済フォーラム(WEF)年次総会出席のため訪問したダボスでイヴァニシヴィリ・グルジア首相と会談し、両国政府間委員会の活動を再開させることの重要性を強調。同日、ヤヌコーヴィチ大統領は、シュルツ欧州議会議長と会談し、2月25日のウクライナ・EU首脳会議の議題に関し協議。また、同大統領は、シュワブWEF会長と会談後、ウクライナはWEFの欧州及び中央アジア地域サミット開催を計画している旨発言。

・24日、ヤヌコーヴィチ大統領は、「欧州復活のための基礎構築」セッションにおいて地政学、ガス分野におけるウクライナ・ロシア・欧州関係及びウクライナとEUとの今後の協力関係等に関し発言し、ウクライナの欧州志向は不変であり優先課題である旨強調。

▼コジャーラ外相のトルクメニスタン訪問

・23日、トルクメニスタンを訪問したコジャーラ外相は、ベルディムハメドフ大統領と会談し、ヤヌコーヴィチ大統領のトルクメニスタン訪問の準備状況に関し協議。ベルディムハメドフ大統領は、ヤヌコーヴィチ大統領との間で築かれた両国友好関係を高く評価。

・23日、コジャーラ外相は、メレドフ副首相兼外相と会談し、石油プラント及び建設分野等における両国協力関係、国連及びOSCE等の国際機関における両国対話の活性化等に関し協議。

4. 防衛

・24日、セルヘイエフ・ウクライナ国連大使は、コンゴ民主共和国の国連安定化ミッションにおける軍用機部門の倍増、リビアの国連ミッションへの警察部隊の派遣を計画している旨発表。

(了)